

1. 【研究の概要図】

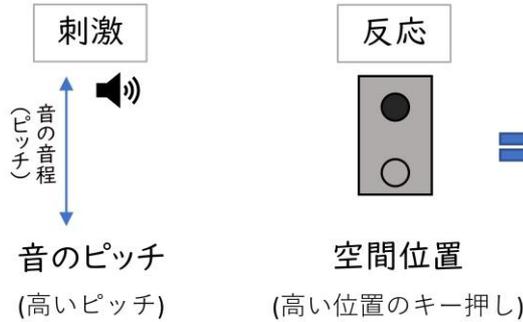
この応募用紙に記載する研究の概要を以下の枠内に図式や分かりやすい色を用いて、概要図を作成してください。

※様式の変更・追加は不可（以下同様）

研究課題名	発声反応を用いた感覚-運動システムにおける多感覚情報共有
-------	------------------------------

先行研究

感覚知覚（刺激）と運動（反応）間において、異なる感覚同士が非恣意的に対応することがある



SMARC効果

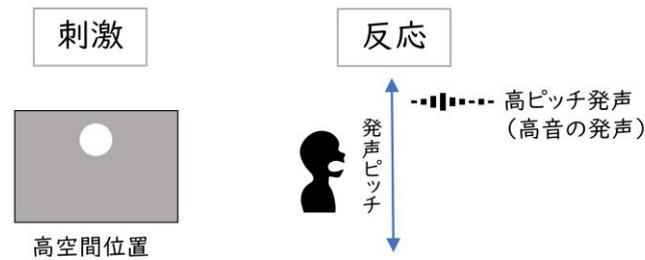
聴覚刺激のピッチ高/低と空間位置の高/低と関連したキー押しに影響

ただし、**運動反応がキー押しに限られており**空間位置や時間長などの特徴しか運動反応側で扱えなかった

他の感覚特徴を運動反応側で扱うために...

発声反応に着目

これまでの研究



鈴木・永井 (2020) 研究業績1

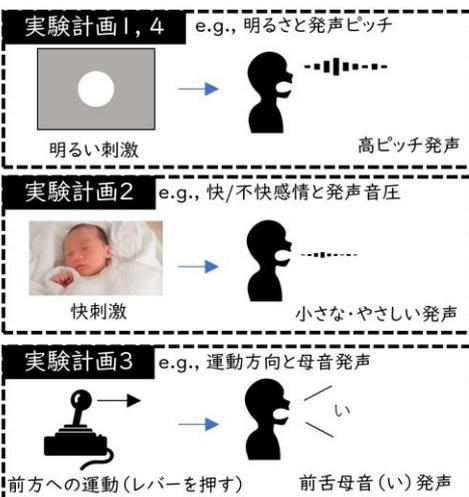
視覚刺激の空間位置高/低とピッチ高/低を操作した発声反応に影響

SMARC効果（聴覚ピッチが空間位置に関連したキー押しに影響）と合わせて考えると...

➡ **ピッチと空間位置は感覚-運動システムにおいて、双方向に対応**

これからの研究

赤ちゃんに話しかけると、意識せずに声が小さく、高く、優しくなるように、発声は単純な視覚情報（上記の空間位置など）以外にも、様々な情報と結びついている



これまで行ってきたような感覚-運動システムにおける感覚同士の対応に加え、社会的情報や他運動との対応を発声を軸に展開していく

多様な情報が感覚-運動システム・運動-運動システムで対応し、共有されていることを発見し、その関係解明に焦点を当てる

多感覚情報の表現に関する新たなモデルの構築や、科学的な発声トレーニング法の開発

発展・応用的側面